

つくい えんじけん 津久井やまゆり園事件について その9

DVD 「生きるのに理由はいるの？」 感想

私は差別のない世の中は、人の善意や倫理観に頼るのではなく政治的な問題として解決をめざし、作っていくべきだと思います。DVDの中で「昨日できたことが今日できるようになった。これは進歩だ。進歩していることが生きているということだ」と言っている人がいました。私は、上から目線だと感じました。進歩がなければ生きていないのと同じですか？なぜ障がい者だけがそういう見方で評価されなければいけないのか。進歩を目指すのはその人の勝手。人が進歩と認めなくても、自分では進歩したと決めることもあると思う。このままでいいと決めるのも本人の自由。

幸せも生きる理由も自分で決めるもので、他人にあーだこーだ言われるすじあいはないと思います。この人たちは幸せなのかとか、生きていて何の意味があるのかとか、大きなおせっかいだと思います。

全然知らない他人に対して、この人幸せなの？とか生きている意味あるの？なんて普通考えません。障がいがある人に対しては、そういう風に勝手に考えて、この人たちにお金使って不公平だというのはすじ違いだと思います。憲法は全ての人に対して、健康で文化的な最低限の生活を保障しています。国は全ての人に徹底して、お金をしっかり使ってそれを保障しなければならないです。その上で差別解消法にあるようにどんなに障がい重い人でも普通のと同じ生活ができるように施策をとること、お金をしっかり使うことをしないといけない、と思います。そういう政治をしなければ法律は名ばかりです。

障がい者の人たちに税金をかけるのは間違いという人は、自分の生活に対して保障が十分になされていないと感じているのではないかと思います。

不公平というなら、過酷な労働条件のもとに働かされている労働者の上にあぐらをかき、税制を優遇されている大企業、高所得者こそ不公平ではないですか？

今の政治は、障がい者のみならず、弱い立場の人たちに対して冷たい。国民の生活を良くしていこうとする姿勢は全く感じられない。

それどころか、「子どもを産まないなら生きている価値がない」という発言を平気でして、差別をあおっている。病気になったスポーツ選手に対して、「オリンピックが盛り下がるから残念」と言った。国家にとって役に立つかどうかで人の価値のあるなしを決めつけています。

こういう人たちが上に立って政治を行っている。今の現

状で私たち支援員はどうしたら、何をしたらいいのか。私は今の自分の仕事をしっかりすること、本当に人のための政治が行われるよう政治参加していくこと、これをしていきたいです。